

令和 8 年度 重点研究の総合評価(中間・事後)

■重点研究 中間評価(継続課題)

課題名	担当試験場 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果					総合評価	
		研究 の 進捗	目標 達成 見込	活用 の 可能性	評価	意見	評価	意見
ゲノミック選抜を活用した新たな多収大豆品種開発手法								
	○十勝農業試験場、 中央農業試験場、上川 農業試験場、北見農業 試験場、道南農業試験 場 (R7-R9)	b	b	b	B	概ね計画通り進捗している。 多収性と加工適性の両立や 実用品種化への道筋を明確 にすることで、道内大豆生産 の安定化・高収量化へ貢献で きる成果につなげること。加 えて、急速な気候変動への対 応を可能とするような検討 が行われることを期待する。	B	評価委員会の意見も踏まえ、 引き続き課題に取り組むこ と。
畑作・露地園芸圃場における IoT 機器とリモートセンシングを活用した灌水適期・適量通知システムと可変灌水技術の開発								
	○十勝農業試験場、 北見農業試験場 (R7-R9)	b	b	b	B	含水率-pF 変換モデルは開 発されつつあり、精度の向上 に引き続き取り組むこと。当 初目標の達成に向けて、気象 条件を考慮した灌水適期・適 量通知システムの構築や、農 家の水管理判断を支援する 灌水マップの作成を進め、関 連企業等に普及できる成果 につなげること。	B	評価委員会の意見も踏まえ、 引き続き課題に取り組むこ と。
乳牛生産寿命延長のための育成雌牛の目標成長速度								
	○酪農試験場 (R7-R9)	b	b	b	B	データ整理は一定程度進ん でいるが、成長分類方法の再 検討やデータ収集の実現可 能性が見極めなどが必要で ある。発育状態が生存率に及 ぼす影響の分析、および生涯 生産乳量データの収集など、 多面的な検討を進めること で、当初目標である生存率 70%とする成長速度の提示 に取り組むこと。	B	評価委員会の意見を踏まえ、 引き続き課題に取り組むこ と。

養鶏場における感染症リスク低減のための野生動物の侵入防止対策の提案							
○畜産試験場、エネルギー・環境・地質研究所 (R7-R9)	b	b	b	B	野生動物の侵入実態の把握は一定程度進んでいる。HACCP に基づく手引き書の基盤構造を早い段階で検討した上で、感染状況の調査対象を拡充するとともに、対策効果を実証し、防疫対策に直接活用できる手引き書の作成に取り組むこと。	B	評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。
アサリ漁獲機械の小型化および社会実装に向けた研究							
○釧路水産試験場 (R7-R9)	b	b	b	B	機械の小型化や回収・選別アタッチメントの検討は概ね計画通りに進捗している。当初目標の達成に向けて、漁獲効率の向上と底質環境に応じた選別・除外効率の改善を継続するとともに、現場での作業性やコスト面を確認し、漁業者の省力化に資する実用的なシステムの構築に取り組むこと。	B	評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。
道産巻貝類の種分類に関するアーカイブの構築							
○栽培水産試験場、釧路水産試験場、網走水産試験場、稚内水産試験場 (R7-R9)	b	b	b	B	標本や画像、分類情報等の収集整理は概ね計画通り進んでいる。一部進捗が遅れている画像判別手法の開発等を加速させること。当初目標の達成に向けて、漁業者や流通関係者が利用しやすいアーカイブや図鑑の作成をすすめるとともに、消費者を意識して「種の正確な同定」が市場価値や需要の向上に結びつくような戦略を検討すること。	B	評価委員会の意見も踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。
道産材を用いた CLT の土木分野での利用技術の開発							
○林産試験場 (R7-R9)	b	b	b	B	JAS 格外ラミナの材料特性や CLT の利用条件の検討は、概ね計画通りに進捗している。当初目標の達成に向けて、耐久性などの目標性能、施工性、コスト面を整理するとともに、既存素材との比較を行い用途を明確にし、道産木材資源の有効な活用技術の確立に取り組むこと。	B	評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。

持続的な地熱・温泉資源の開発・利用に向けた有珠山周辺の資源動態イメージング								
○エネルギー・環境・地質研究所 (R7-R9)	b	b	b	B	有珠山周辺での観測・解析が着実に実施され、計画通りに進捗している。地熱・温泉事業者との協議を深めながら、目標である動態のイメージングを明確にし、地熱・温泉の資源管理や開発リスク低減、火山防災に資する成果につなげる。取りまとめる際は本成果活用の具体的な姿を提示することが望ましい。	B	評価委員会の意見を踏まえ、引き続き課題に取り組むこと。	

■重点研究 事後評価(R7 年度終了課題)

課題名	担当試験場 (研究期間)	研究評価委員会の評価結果					総合評価	
		内容 の妥 当性	目標 の達 成度	活用 の可 能性	評 価	意見	評価	意見
衛星画像による大規模草地の植生判別法の開発								
	○酪農試験場、酪農試験場天北支場 (R5-R7)	b	b	b	B	広大な草地管理に必要な技術であり、植生判別の目標を概ね達成した。しかし、判別精度の検証や更新優先順位の提示には課題が残る。社会実装に向け、スタートアップ企業との連携や外部資金の獲得を通じて、現場の意思決定や飼料品質評価に結びつく研究への発展を期待する。	B	評価委員会の意見を踏まえ、今後の取り組みを進めること。
深刻化する養殖ホタテガイ大量死発生機序の総合理解								
	○函館水産試験場、中央水産試験場、栽培水産試験場 (R5-R7)	b	b	a	A	中間評価後に生じた環境変化に対応して、高水温対策に迅速に取り組み、有益な知見を得た。今後は、当初計画としていた大量死の発生機序について整理するとともに、高水温対策については漁業現場で容易に運用可能な管理指標や予察方法の確立に向けた検討を進め、成果の普及に努めること。	A	成果の普及を進めるとともに、評価委員会の意見を今後の取り組みに役立てること。

海藻類の陸上養殖技術の開発と生産モデルの構築							
○稚内水産試験場、網走水産試験場 (R5-R7)	b	b	b	B	低コストな陸上養殖技術や周年栽培を可能とする有用な技術が開発された。今後は、生産コストの精査や品質の再現性を確認するとともに、市場性の評価やブランド化を含めた「事業化へのストーリー」の構築に向けた取り組みを期待する。	B	成果の普及を進めるとともに、評価委員会の意見を今後の取り組みに役立てること。
グイマツ雑種 F1 の充実種子の増産に向けた施肥技術の開発							
○林業試験場 (R5-R7)	b	b	b	B	充実種子の増産に向けた施肥条件について一定の知見が得られた。一方で、発芽率の向上には課題が残った。種子生産は年次変動の影響を受けやすいため、複数年での再現性や適用条件の検証をさらに進めるとともに、技術にかかるコストを確認した上で、普及方法の具体化に向けた検討を進めること。	B	凶作等の影響で当初計画の試験が十分にできず、種子発芽率を向上させる施肥管理技術の確立には至らなかったが、関連する有益な知見が得られた。肥料の葉面散布の効果や施用方法の科学的妥当性を高め、採種園で実用可能な技術として体系化を図ること。
単木計測 AI 技術と CLAS-LiDAR 計測技術による森林資源量推定システムの実用化							
○林業試験場、工業試験場、ものづくり支援センター (R5-R7)	a	b	b	B	林業の喫緊の課題である森林資源推定の省力化に向け、AI と CLAS-LiDAR を組み合わせた高精度な森林資源推定技術を開発した。社会実装に向け、推定精度や導入コスト、操作性について競合する技術との比較を行った上で、企業との技術提携が進められることを期待する。	B	評価委員会の意見も踏まえ、今後の取り組みを進めること。
AI を用いた RC 造建築物外壁調査・診断等の支援技術の開発							
○北方建築総合研究所 (R5-R7)	b	b	b	B	RC 造建築物外壁点検の省力化や費用低減などに資する成果が得られた。既存技術と比較を行った上で、判定精度の保証や専門技術者による確認体制の整備などを行うとともに、道内外を含めた広範かつ継続的な情報発信により成果の普及に努めること。	B	成果の普及を進めるとともに、今後の取り組みに当たっては、評価委員会の意見も参考にすること。

既存住宅流通促進に向けた戸建て空き家・空き家予備軍の実態把握ツールの開発							
	○北方建築総合研究所 (R5-R7)	b	b	b	B	空家・空家予備軍の特定 や流通ポテンシャルを推定 するツールを開発し、当初の目 標を概ね達成した。ツールの 本格的な運用に向けては、デ ータの更新方法や個人情報 の取扱いなどの整理を進め、 自治体等が活用できるよう 成果の普及に努めること。	B 空家・空家予備軍把握・ 評価ツールの自治体への普 及に努めるとともに、評価委 員会の意見も踏まえ、研究成 果が適切に運用されていく よう必要な取り組みを進め ること。